

受講者の声

VOICE I 総論

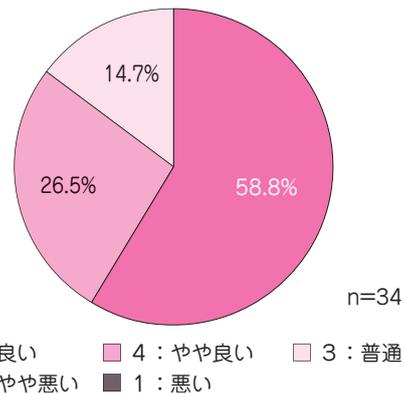
カリキュラムの構成・・・平均4.4

今年度受講者の「カリキュラムの構成」の満足度は4.4と、過去12年の平均4.6を下回る結果となった。内訳をみると「5：良い」が20名で58.8%と最も多いものの、例年に比べて「3：普通」の層が多かった。アンケートにおける「(3) 今後新に取り入れた方が良いと思われる講義内容とその理由」及び「(4) コース全体に関する質問や疑問点」を見ると、本事業のコアカリキュラムともいえる「『野外研修』や『運動観察（指導現場視察）』」がなかったことが残念」という声が複数挙げられており、今年度こうしたプログラム構成が満足度に影響を与えた可能性は高いだろう。今年度はCOVID-19感染拡大防止の観点により、オンラインでもプログラムを展開し、前半は集合とリモートの双方での参加可能、後半はオンラインでの実施となった。今後もオンラインでプログラムを展開する場合は、こうしたコアカリキュラムをどのような方法で実施するか、また次年度以降において参加の機会を設定するかなど、代替措置を検討する必要があるだろう。

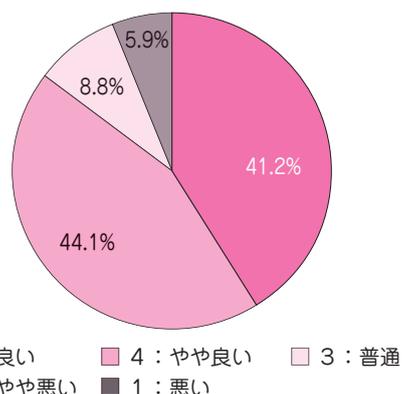
また、カリキュラムごとの満足度を個別に見ていくと、受講者による「プレゼンテーション実習」が最も高い4.85であった。同プログラムは、プレゼンテーションのスキルを実践的に獲得できるということで、例年受講者満足度が高いものではあるが、毎年ほぼ受講者何れ度が一番高い「野外研修」等がない中で、他の受講者のキャラクターを確認する機会にもなったように見受けられる。それは、受講者による「プレゼンテーション実習」によるコメントからもうかがえる。例えば「お互いのプレゼンテーションで、お互いの活動や哲学を理解することができました。または発表スキルに対しても相互のコメントなどがあり、より深い課題なども見つけることができました。」「受講者それぞれの発表を聴くことで、様々な競技について学ぶことができることはもちろんのこと、自分にはない視点を学んだり、発表の仕方の良いと思う点やその方の個性も感じることもできたりなど、とても勉強になりました。」「アカデミーの醍醐味と感じた。テーマに柔軟性もあったことから、個性がでていてどのプレゼンもとても面白かった。オンラインではなく現場でできたらまた雰囲気も異なったと思うので、実際に聞きたかった。」など、プレゼン実習を通して、多くの示唆を与えられたといえよう。

一方で、受講者の考えや知見を共有できる「アッセンブリ・アセスメント」や「ディスカッション」については、それぞれ「4.62」、「4.47」とそれほど高い評価とはならなかった。受講者からのコメントで「講義のコマ数を埋めるのに、座学で可能なもので補わなければならないため、後半につれてディスカッションが増えるなど、学びの低い講義も多かった」とあったが、ディスカッションが後半に多く実施するのは例年通りである。同プログラムは、受講者がそれぞれ講師・発表者となり、他の受講者と意見交換をして、自身の意見を磨いていく機会であるため、前半に思考や言葉のスキルを磨き、後半にアウトプットをしていく機会の一つとしている。そのプログラムの意図が伝わるように、前半のスキル研修の精度を上げ、後半のディスカッションのテーマを精査していくようにしたい。

カリキュラムの構成



スケジュール



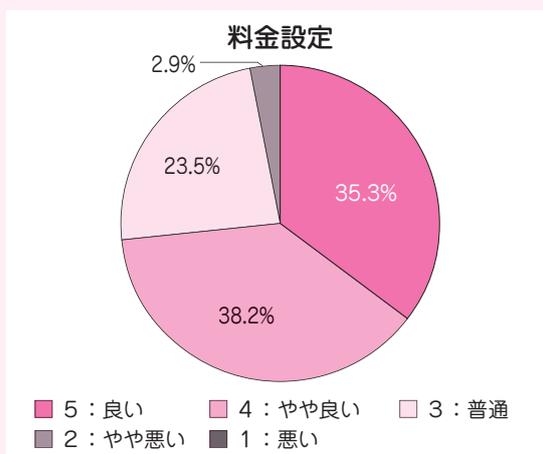
■スケジュール（時期、期間等）・・・平均4.2

過去12年の平均4.0を上回る4.2となった。今年度はオンラインでも実施したため、リモート参加も可能となったことで、「このシステムがあり、3年目にしようやく受講コマ数が獲得できたと思います。」という意見があった。またコロナ禍ゆえに遠征や合宿が例年より少なかったことで多くの受講者にとって参加しやすくなったようで、例年より受講率も高かった。一方で、「8週間ほぼ連続でも講義だと、現場で実践しその振り返りをし、またアカデミーで学ぶということが難しいと感じた。」「開催時期がシーズン開始と重なっていたため、全ての講義への参加が難しかったです。オリンピックの時期等の関係もあったとは承知の上ですが、やはり冬季競技の関係者にとってこの時期のみの開催は、競技との両立が難しいと感じました。興味のある講義に参加できないこともあったため、そこが残念でした。」という意見もあった。夏季オリンピックの年度は秋季に8週間ほぼ連続の実施となってしまうため、何らかのフォローアップの方法を考えていきたい。

■料金設定について・・・平均4.1

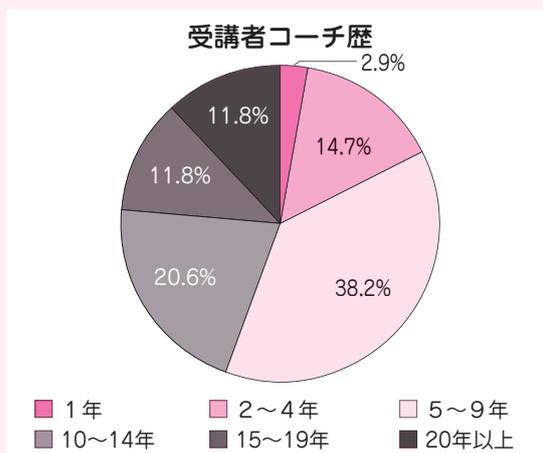
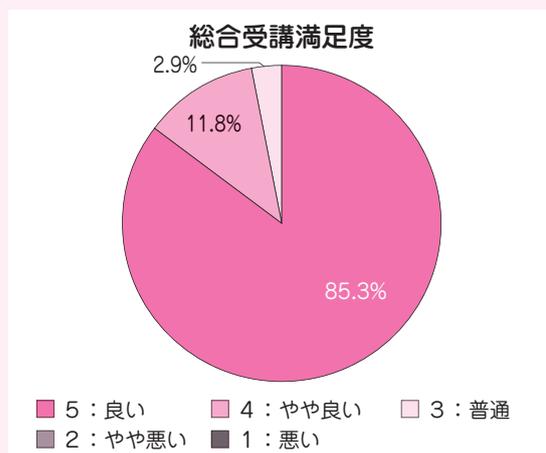
昨年度と同様に、受講者平均4.1だった。今年度は宿泊が味の素ナショナルトレーニングセンター・アスリートヴィレジより近隣ホテルの利用（5週分）となり、運営側としては費用がかかることとなった。また、受講料の支払は、ここ数年とは異なり、受講者自身が一番多く（41.2%）、次が所属競技団体負担（35.3%）となった。

なお受講者から「NCAの受講が1年で修了せず、複数年度にわたった場合、受講料は毎年同額を支払わなければならないですか。」という質問があったが、受講料は初年度のみとなっている。

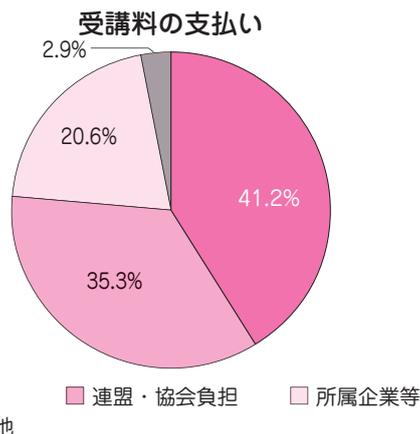


■総合受講満足度・・・平均4.8

総合受講満足度は平均4.8、「5：良い」が29名と、過去12年の平均4.7と同様に高い評価をいただいた。前述のとおり、コロナ禍でオンライン併用の実施となり、毎年受講者評価が高く、いわゆる「横のつながり」を深めるといわれるプログラムが展開できなかったが、受講者の皆様自身の尽力もあって、無事に終わることができたといえるだろう。個別のコメントには「素晴らしい教育をありがとうございました。本当に良い学びが出来ました。」「カリキュラムの組み方が秀逸で、受講しながら、段階的に成長できていることを実感できた。この受講する講義の順番によって気づくことやハッとすることが変わっていたと考えられる。本当に素晴らしいカリキュラムだったと感じる。」「コロナ禍において非常に工夫して開催頂いているのを感じました。私達13期生はこのオンラインとのハイブリッド開催の形での受講しかしていないので過去の受講と比べる必要は無いと考えております。どのような形の開催であれ、学びの機会と気づきを与えて頂いたことには違いありません。」「このご時世で、研修ができたのは奇跡…ではなく、スタッフ皆さんの準備、気遣い、配慮があったからだです。感謝しかないです。また今回のZoom研修が今後、新しい『カタチ』としてのモデルケースとな



ることを期待している。」等、多くの受講者の方にコロナ禍での実施を前向きに受け止めていただいたことに感謝している。今後は、オンラインでの実施の継続やオンデマンドでの一部実施などを検討するとともに、対面で実施できる場合は集まれる機会に感謝し、より充実したプログラムの企画・実施に尽力をしていきたい。また今年度受講者には、今年度実施できなかったプログラムについて学べる機会を提供していきたい。



VOICE II 各論

(1) 印象に残った講義名とその理由

❖ オリンピック論

- クーベルタンの想いとオリンピックの本当の価値を改めて確認することが出来た。
- 私が一番印象残ったのは、オリンピック論の來田先生です。なぜかという、NCAを通して、私自身の周りを考えても、オリンピックの価値が昔と変わってきた危機感を感じていました。そして、最後の講義でオリンピック論を受講してオリンピックの意義と価値の偉大さを感じることが出来たからです。特に先生の最後の言葉で、『オリンピックの理想やクーベルタンの言葉はきれいごとかもしれない。でも、理想は捨てちゃダメなんだ。なぜなら、捨てた時点で理想は永遠にこない！』そして、コーチの理想とオリンピックの理想は同じで、その先に自分の教え子が20年後に街で出会った際、人として誇りある人間に育ってほしい。ということなんだ。と感じてオリンピックという存在は無くならず、人間の尊厳部分の価値をあり続けてほしい。と感じたからです。
- 全てを総括して頂き、とても納得が이었습니다。

❖ コーチング論

- コーチング論が印象に残っています。その理由は、それぞれの競技団体の実践例などを聞くことができたからです。例えば、卓球競技ではエリートアカデミーの言語技術育成や栄養指導、前原さんからの大会会場などの整備やスポンサーとの連携など。ラグビー競技、サッカー競技からは、医科学サポートからのデータ収集やそれを活用してのフィジカルトレーニング等です。
- コーチング論では様々な立場（外国籍コーチ、協会コーチ）における考え方や実践例を学ぶことができ、とても印象に残った。とはいえ、その他、ほとんどの講義を通して、新たな知見や学びを得ることができ、とても印象に残っている。

吉川講師

- コーチングにおいてどのような点が大事なの

か、選手にとっていかにコーチという存在と影響が大きいのかを再認識できたため。

ガレス・ジョーンズ講師

- 選手とのコミュニケーションの取り方において学びになる内容が多かった。

アイクマン・ジークフリード講師

- 彼の熱意とやる気の中にその国の伝統や歴史を学ぶ姿勢そして、その中からの俳句を選手に書かせ、その発表をさせ、日本の伝統と誇りを尊重している姿勢、武道からの学びを指導方法に展開する柔軟さに感動した。
- 選手の考える力、日本文化を考慮した指導法に感銘を受けた為。

❖ マネジメント論

- 岩淵氏、前原氏、水鳥氏、榊田氏、湯田氏のマネジメント論が非常に印象に残りました。理由は、講習を通してそれぞれの立場での覚悟が聞けたからだと思います。
- NFの存在意義、使命、新しい取り組みをどのように実現するか、周りを取り巻くことの重要性、現在はコーチとして活動しているが、今のポジションでも組織を変えていくことができるし、そのために発信していかなければいけないという決意を抱くことができた。
- 失敗又は低迷からの成功例は、我がNFにも可能性を感じることができ、是非試してみたいと思ったからです。
- マネジメント論では各競技団体の取り組みについて講義いただいたが、その団体も一朝一夕で成し遂げたものではなく、長期的に、組織の課題に対して真摯に向き合っており、大きく改革をしていることがわかった。

- 印象に残っている講義は「マネジメント論」です。その理由は、自分自身にマネジメントに関する知識、考え、経験が少ないため講師の先生方お一人おひとりの話がとても新鮮で興味深かったからです。現在はNFに所属を置き、日々を過ごしていく中で、「協会をより良くしていきたい」という思いを抱いています。協会内部で働いてみると「今の状態では良くない」と感じる事が多くあるのですが、具体的に何が悪くてどのように改善するべきなのかが見えていない状況です。そのような中で、先生方の実例を元にした話から、競技団体の発展や、より良い方向へと進めていくためにどのように力を尽くされているかが聞けて、自競技団体と全てが重なるわけではないですが具体的なイメージが湧き、自分自身のモチベーションを高めることができました。今の自分自身にできることは何か、ということを考えながら実践していくことが重要であると感じます。一つひとつにはなるとは思いますが、自分自身の現状や競技団体の現状に向き合って進めていきたいと感じました。
- 卓球・ラグビー界において、どのように日本チームのレベルアップを図っていったのか、具体的な考え方や取り組みを学べたため。また、競技力向上と同時に心の育成も大事だという点を再認識できたため。

前原講師

- 普段のものの見え方、感じ方がとても衝撃であった。私もその感性を勉強したく、「視野」を広げたい。現場のコーチだけでは得られない観点であった。
- より具体的でまとまっていたため。
- 理由は、前原さんのような人になりたいと思ったからです。よりよくする、理想に向かい現場主体で現実主義の姿勢に自分の将来像の輪郭がうっすら見えたような気持ちになりました。
- 卓球協会の取り組みに対し現場の生の声がリアルに聞けると共に自競技への取り込み方も考えさせられた。
- 前原さんのマネジメント論を昨年聞いた時にかなり踏み込んだ内容まで聞けましたが、今年の1回目のマネジメント論を聞いた評価表にあの話を聞きたいとリクエストを記載したら翌週にすぐ組み込んでくださったのが印象的でした。運営サイドが私達の意見を受け止めてくれたことを実感し、より温かみを感じました。

岩淵講師

- 成功の裏話を具体的にお聞きできて胸を打つものがあった。

水鳥講師

- 動作の習得にまつわるコツの感覚やイメージトレーニングについてなど、自分たちの競技にも通ずる内容をオリンピック選手から実際に聞くことができコーチングに活かしたいと感じられる内容だった。
- アナロジー思考の実践、体操連盟での改革実践に感銘を受けた。

久木留講師

- ハイパフォーマンスにおける最前線の考え方に感銘を受けた。

湯田講師

- ソチ以降のスピードスケート界の改革について感銘を受け、参考になった。

❖医・科学サポート論

コンディショニング～杉田講師

- 自分が携わっている分野に大きく関わっていること、現場で実践できる知識が学べたため。
- 睡眠や暑熱、栄養など今日からでも取り組んでみよう、選手に伝えようという内容が豊富で1番充実した講義と感じた。

❖スポーツ情報戦略

渡辺講師

- 情報戦略でわかりやすく、自競技に落とし込めようだから。

❖言語技術

- 思考をロジカルに言語化することは指導者のスキルに必要。選手との会話、自競技、他競技の方との会話や、ディスカッションの際にも十分に必要なスキルである。また、今後、英語を勉強する際にも考え方、構造化の基本となる。
- 今までこういった講義ははじめてでコーチングやコミュニケーションの土台になる講義であった。
- 論理的な思考や明確に伝える技術を養う方法を具体的にご指導いただき、コーチングのスキルとアスリートの競技力向上に役立つものであると感じたため。
- 相手への伝え方及び同じ認識を持つことで効率的に指導でき、質の高い技術を習得できた。
- 講義により、日本においていかに曖昧な言葉を用いられることが多いか、そして明確な言葉を使うことでどれだけ情報の伝わり方が変わるかを実感できたため。

❖トップスポーツ論

- HPSC、JOCの役割や、スポーツに対する情熱、自競技に対する追求について深く考えさせられた。

❖コーチング実践

- 最高のアウトプット満載の時間であった。
- コーチングの講義の話の中で納得いくことが多かった
- NFのトップから直接、成功の過程を学ぶことが出来た。

❖特別講義「感染症の歴史」

- 今後、身に付けておかなければならない知識、情報のきっかけになりました。専門家に任せっきりにならずにとて身近に感じないといけないうことだと感じました。

❖スポーツマーケティング

- スポーツ市場の変化や可能性について話された内容に衝撃を受け、これからの競技普及や存続のために最も時間と労力を掛け取り組まなければならないものだったと思ったから。

❖ 武道体験

- 「日本人らしさ」をどれだけ有効に活用できるかといった「身体文化論」はたいへん興味深いものであった。また「躰下丹田」には私も興味があり、5年前からバドミントンのフットワークに活かしたいと考え実践していたこともあり、大変印象に残った講義であった。

❖ 情報交換会

- 実際の立食会について意見を出し合い、多角的な視点から物事をみた。先生のどの意見も否定せず肯定する姿勢が印象深かった。

❖ ジェンダー論

- 理由は、私は今まで周りに居ないと思っていたが言えないという現状も考えられることを知りました。多様性を認められ求められ始めている現代には、必ず身近な問題として向き合わないといけないと感じました。

❖ ディベート

- 議題についての情報収集や初めてチームをつくっての戦略作りなど、そのやりとりが印象的だった。
- これまでディベートを行ったことがなかったが、ディベートを行うにあたって、十分な知識が必要であり、それらを説得力をもって伝えるということが非常に難しく、普段から様々なことに興味を持ち知識を増やさなければならぬと気づかされたため。

❖ ディスカッション

- 今回はコロナの影響で非常にディスカッションが多かったです。講義に物足りなさを感じつつも、仲間達とのディスカッションがより深い生々しいものを交換できたことはとても印象深かったです。

❖ アッセンブリ

- 前原ディレクターの感性や考え方に触れて感銘を受けたため。

❖ 全体

- 一つをあげることは難しいです。受講前にプログラムを拝見し、オリンピック論は大変興味がありましたので、講義を受けることに満足しましたが、講義内容からたくさんヒントを得ることができました。また、マネジメント論、特に久木留先生、田嶋先生、前原ディレクターの講義、その他、トップスポーツ論、仕事の設計力向上、会議マネジメント、言語技術、コーチング・コミュニケーション、スポーツと法、情報戦略、ディベートは印象的でした。理由としては、やはり自分ごととして捉え、今の役割に必要な要素がかなり詰まった講義だったからです。研修期間中、学んだことが並行して実務に繋がり、学びを生かすことで自分自身の変化を感じることができました。今後は習慣になるよう繰り返し活用したいです。

- 冒頭の田嶋さんの挨拶の熱量がすごくて、いきなり感極まってしまいました。コーチング論、マネジメント論は具体的な取り組み、指導者の観点と哲学を学ぶことができ非常に参考になりました。
- どの講義もよかったのですが、一番は他団体のみなさんとコミュニケーションとれた、ディスカッションやアッセンブリでした。横のつながりや、団体ごとでの取り組み、またコロナ禍での遠征や大会開催等、今現在の状況を知れることになったため。

(2) アカデミー期間中に、ご自身が実践したカリキュラムとその効果

❖ オリンピック論

- 今まで抽象的にしか理解していなかったクーベルタンの考え方について、大学指導現場で例え話として引用したところ、メンバーでない選手モチベーションに良い影響がありました。

❖ 医・科学サポート論

栄養～木村講師

- 木村典代先生の講義であった「受け身に慣れていないジュニア選手」への指導を参考に既に実践に向けて取り組み始めました。コロナ禍の状況なので今、出来ることとして想像力を働かせて準備を進めようと考えております。

❖ 言語技術

- アカデミー一期間中すぐに実践できるものとして、言語技術に取り組みました。最初に結論を言う、という点を意識するだけでも聴き手への伝わり方が変わり、選手とのコミュニケーションや会議での発言の伝わり方が向上しました。
- 言語技術での相手への話しかけ方など、相手の気持ちを汲んでまた、相手が話しやすいようオープンクエスチョンやクローズクエスチョンを使い話すように心がけた。
- 言語技術を活用したコーチングを行った結果、意識的ではあるが選手側の考えるという行動が始めた様に感じた。また、私自身も思考を深めて対応しようという行動が出てきた。
- 言語技術などで出た、伝え方などを意識して選手と関わった。
- 指導の現場では、ユース選手への指導時に質問方法の「クローズドクエスチョン」や「過去質問」などを使って選手自身に考えさせることを合宿時に実践した。まだなかなかうまくはいかないが、漠然とした質問よりは会話が続くと感じた。
- 日常的に人と会話をする中で、言語技術の講義で学んだことを活用して話をできるように努めました。正直、うまく活用できているとは言えない状況ですが、良い効果としては、自分自身がどのようなことを考え、何に対して疑問を持っているのか、などを考えられるようになってきた気がします。まずは講義の内容をしっかりと振り返りたいと思います。その上で自分自身の頭の中を整理して思考を深め、他人と話をできるように今後も継続していきたいと思います。
- 言語技術を使って文章作成し、端的かつ正確さを意識できました。

❖ マネジメント論

久木留講師

- 効果：所属チームにおいて目標・目的の見える化を行い、チーム全体の意識が高まった。

❖ プレゼンテーション実践

- アカデミー期間中に1時間のトークショーの仕事があり、そこではプレゼンテーション実践で学んだ伝え方を活用してみた。原稿読みせず、背伸びしないで自分の言葉で伝えることを軸とするようにし、視聴者からはテーマの選択や伝え方など良かったと反響があったので少なからず効果はあったように感じる。

❖ オンラインコーチング

- 効果：Zoomを活用したミーティングを行い、コミュニケーションが円滑にできた。

❖ 外国籍コーチプレゼン

- Mr.アイクマンが実践した、俳句をその週末に、学生合宿で実践しました。選手はビックリしていましたが、みんな書いて、翌日、面白かった人にお菓子をプレゼントしました。また、書きたいという選手もいて、射撃だけの練習ではなく、頭を使う？考える？ことの大事さを取り入れてみました。今後も継続して実践して効果を見ていきたいと思っています。

❖ グループダイナミクス論

- 山田先生のシェアドリーダースhipを実践しました。今までは指導者から選手のベクトルだけだったのが、選手自身が他の選手とのコミュニケーションをとって考える力が身につくと感じました。ブラッシュアップして今後の指導に役立てたいと思っています。

❖ メディア論

- 今回の勉強内容が選手たちへのインタビューの対策として、現場では効果があるように感じました。

❖ 会議マネジメント

- 強化マネジメント会議で時間短縮につながった。

❖ インテグリティ教育

- 期間中にU18の合宿があり、インテグリティ教育を実践した。選手達は真剣に取り組んでくれ、最後の決意表明でも素晴らしい内容が見えられた。
- 自分自身の考えを前に進めることが出来、10年間の胸のつかえが取れました。体操界に与える影響は大きいと思います。

❖ ディスカッション

- ディスカッションを通して、自分の話に論拠があまりないことに気がついたのでチーム内のミーティング時において、エビデンスを準備し

た上で話をする癖をつけました。効果はまだ実感していませんが、自身が提案したものに対して周囲のメンバーの納得を得られるようになっていきたいと思っています。

❖ 全体

- ①物事を言語化して伝える、②前原流の視点で試合の視察に行く、③自競技のマネジメントについて初歩段階として興味が湧いた。
- 言語技術とコーチング →選手がより耳を傾けてくれるようになった。
- 医科学サポート全般の新しい知識と言語技術、また個人競技種目の指導者の選手に対する寄り添い方。及び強化策としての外国文化と日本文化の融合。
- コミュニケーション。一番身近ですぐに実行できる。コーチからのコミュニケーションはやはり選手は意識していると思うので気をつけながら実施していく。
- 言語技術とZoomミーティングです。選手からも明快で時間を効率的に使用することができ、テーマもインプットできるため非常に好評でした。
- 言語技術とコーチング・コミュニケーション、医科学サポート論（効果：日々の指導において、コーチングのスキルのなさに気づいた。パラグラフを意識した説明や質問を重視したコーチングを実践。まだまだ効果があると言いが、選手の質問、発言も増え、練習の中身を自ら考え取り組むような姿勢が見られるようになった。また、医科学サポート論で学んだディトレーニングの実践、睡眠改善の実践など取り組んだ。
- 筆記や発表が苦手でしたが、講義を通して方法や型を学び、皆さんの前で話す経験を通して、試験の筆記、発表では腹を括って挑めました。
- 様々なアプリや機器・オンライン機能等の活用を、指導現場に積極的に取り入れた。特に Hudl Techniqueを用いた動作分析は、選手たちのフットワークやストローク改善にも役立っている。現時点では初歩的な機能しか使いこなせていないが、今後スキルアップを図ってきたい。
- 私が実践したことは、初めに言われたOPEN MINDを持って、言語技術の主語と結論から述べて理由を加えることを意識していました。そして、プレゼン実習では、ディベートの論理的に考えることで相手に分かりやすく伝える内容を考えました。それらの結果、自分の頭の中で整理出来るようになったこと、理由と根拠のある意見を考えるようになりました。曖昧なことを発しないことができました。
- 断定的ではないのですが、英語を含めて全てです。相手がどう感じたか？や、どうなったか？という効果ではなく、自分自身が円滑に役割を実践することができました。オンライン会議の進め方、ノート（板書）の取り方、言語技術を生かしたコミュニケーションは、期間中大いに利用させていただきました。今後現場でも実践することで、効果を感じ取りたいと期待しています。
- マネジメント論で学んだ取り組みを参考に計画を立てました。コロナ対策も参考になりました。

- 1番はトライ&エラーです。コロナ禍で夜の飲みニケーションができない中、ZoomやLINEなどを駆使してNCAの絆を深めることを試みました。「若造が調子にのって」と思われることもあったかと思いますが、挫けず様々な企画の提案を行ってよかったですと思います。LINEグループでは今年オンライン研修の参加者もいながらでしたが、皆さんに自分事として参加を促していただき、48名のピックグループになりました。今でも現況や情報の共有場となっており、賑わっています。Zoomミーティングや弊社クラブへの見学とフリースタイルスキーのトランポリン実習なども企画でき非常に有意義な時間となりました。また、プレゼンテーションの講義の際にプレゼンはプレゼントと学んだことが印象的でプレゼン試験の時はそれを深掘りして内容を作成いたしました。どんな内容なら相手が受け取り易いか、どんなサイズなら相手が受け取り易いかを考え、笑顔を題材にさせていただいた次第です。対面ではなかったため、みなさんの反応をダイレクトで感じることはできませんでしたが、みなさんから笑顔で感想を言って頂いたのでみなさんにプレゼントを受け取っていただく目標は達成できたのではないかと思います、感謝しております。
- 本アカデミーを通して、選手とのコミュニケーションについての学びを週末の現場に帰って実践することが多かった。特に選手の考えを深めるための取り組みとして「質問」「言語技術」をテーマとして実践し、漠然としていた選手たちの考えを「可視化」することで、より課題や試合前の不安に対して対応することができた。また取り組んでいる活動や所属チームをマネジメントの観点から見直し、強化戦略を練り直すことができた。

(3) 今後新たに取り入れた方が良いと思われる講義内容とその理由

【新規】

- 新体操では「4スタンス理論」を学びタイプによって声のかけ方を覚えていますが、人それぞれに動きやすい身体の使い方があり、指導する上でタイプによって動きやすい使い方を知った方がどの競技でもより選手の能力を伸ばすことができると思う為
- 私は、ジュニアの親御さんに対する対応と考え方を講義に入れてもらえると、より実践で活かせると思いました。なぜなら、モンスターペアレンツが増えていることと少子化の両方がある中で、子供がお客様にならないようにナショナルコーチとしての役割をもっと話し合う機会があればと思いました。民間のクラブのコーチは経営を最優先にするのは致し方ない部分があると思います。だからこそ、NCAでナショナルコーチにしか出来ないことを情報共有と意見交換は、大事だと考えます。
- プログラミング教育 人間学
- マナー講習や話し方講座は私も以前個人的にセミナーを受講したことがあります。コーチングに非常にプラスになりました。コーチとして相手の印象をうまく掴み、緊張感、信頼、情報収集等様々な面で役立つと思います。また話の能力が向上することによって、相手に伝えたい情報を端的に受け取り易くすることで、人間関

係も良好になり、選手とコーチの距離感を縮めることもできると思います。また、どんな話を聞きたいかよりもどんな人の話を聞きたいかのロジックを理解することにより、コーチの人間性を高めるきっかけになると思います。

- オリンピックメダリストの方が受講されていたのでメダル獲得話を授業の1コマとして聞いてみたかったです！理由としては色々な種目のメダリストの方の話を同時に聞けることによって私自身のモチベーションがさらに高まると思いました。
- トップアスリートの講話 理由：アスリートの目線から何を考えるか知りたい。
- 全員参加の宿泊型アクティビティ。
- 歴史など過去を学ぶことに興味があります。特に昔の戦い方や古文などから、得られるヒントは多くあると思うからです。また、宇宙飛行士関連については、訓練などを学び、チームビルディングや強化に行かせることがあると、過去に講義を受けて感じました。

【継続】

- 英語での授業及びテスト
- コーチング論やマネジメント論を多く取り入れていくべきだと思います。あと、情報交換会などの時間は何時間あっても足りないくらい色々話を聞きたいと思いました。
- 医科学サポート論/コンディショニング（理由：これまで指導現場において、選手のコンディショニングの良し悪しをを図るうえでコーチの見た目や選手の感覚に頼るほかなかったが、より確かな根拠を得るために医科学的検証、データによる可視化が選手のパフォーマンスを向上させる。

【現状のアレンジ・テーマの追加】

- 現在、「フェンシングのコーチ」というものを仕事に生きていますが、正直先が見えない部分が少なくない状況で、不安な部分もあります。このような仕事を続けていく上で、アドバイスとなるような講義が1コマでもあると、若手としてはありがたいと思います。
- 女性指導者が活躍するための取り組みや課題、実践例など。現在、女性指導者が参画できるよう様々な動きがあるが、現実的に競技団体間でもその温度差が大きいと感じる。まずはなぜ女性指導者が必要なのか、そのために何が必要なのか、そうした概念的なものも含めて、理解をすることが必要であると考えたい。
- コーチング論やマネジメント論で強い伝統種目のみではなくマイナースポーツの取り組みを紹介いただけたら多様性の面からもNCAの趣旨に合うかと感じました。
- テーマに応じた受講生間のディスカッション 本アカデミーでも話し合いの場は多く持たれたが、時間が短いと感じた。受講生たちの気づきや学び、持論を含めて、もっと意見を交わしてみたいため。
- 1分間スピーチ（一日2～3名で毎回）
- 記者会見実習
- 会議実習（リアル、リモート）

- 組織の全体図や組織の内情、地位役割など、組織のあり方。
 - 経営、ビジネス、スポンサーに関連する講義。理由は、東京五輪後、助成金のカットなど、自競技運営が求められるためです。
 - 普及をテーマにした講義 理由：今後のスポーツ界の大きなテーマになると思うため
 - オリンピックの実体験の講義
- オリンピック未経験の団体なので、オリンピックの舞台と国際大会ではどのような違いがあったか、シーンごとにどんな感情になるか、期間中の動線やメダル獲得後などオリンピックを中心とした話を実際に体験した方から聞きたい。
- 世会最高峰のIOCの組織や、IOCからの各競技に対する指摘などが知れたら良いと思いました。なぜなら、私達ウエイトリフティング競技は、ドーピング問題でオリンピック正式種目から除外される懸念を持っているからです。IOCの活動についても充分に学びたいと感じます。
 - アスリート委員会に関する考え方
現在自競技団体においてアスリート委員会設置に関する議論がなされているのですが、アスリートと競技団体運営側の距離感の取り方が難しいと感じているため、そのような講義があると良いと考えます。
 - 現場の悩みなどを同じコーチという立場の人とディスカッションする機会（発表なし）。

【今年度実施できなかったプログラム】

- 野外活動 理由：自らが頭と体を動かし問題を解決していく、チームビルディングに活用できる具体的な案を知りたい。
 - コロナがなければ出来たはずだが、競技の見学。
 - 実際に指導している現場の見学。
- 指導理論を述べるのは簡単だが、実際に指導者がどのようなタイミングでどのような指導・コーチングを行っているのかなど見て学びたいと感じた。
- コロナ禍だったからその授業がなかっただけなのかもしれませんが、他競技の合宿の視察があったら良いと思います。なぜならば、実際に自分の目で現場を見ると、より勉強になると思うからです。

【その他】

- 研修室の掃除
- ハイブリットの受講方法では、今は、限界があると思います。来年度以降もコロナ過であっても継続して14期生の育成をお願いします。
- 非公式でも良いが他競技での同期の指導方法を何競技か観て参考にさせてもらいたい。
- 講義ではありませんが、パラリンピックの指導者も一緒に受けられるといいと思いましたし、パラ競技を指導しているコーチの方の講義が聞きたいと思いました。

（４）コース全体に関する質問や疑問点（プログラム）

- コーチング実践はおそらく1回でいいのかなと思います。他は特にありません。
- 英語講義は必要ない。理由は、言語は簡単に身

につかないからです。

- ECC英会話など個人的に英語の勉強をしているので、非常にありがたい講義ではありましたがNCAで行う必要性については疑問を感じました。競技によっては全く必要のない競技もあるのではないのでしょうか？
- 良く練られたコース内容で、この仕組みの構成はどこから生み出されたものか？ また、講師の手配はどのようにされたのか？ とても気に入りました。大変価値ある質の高いコースでした。
- 過去の受講者から他競技の練習視察や他会場へ移動しての実習等聞いておりましたが、今回のコロナ禍の状況では開催できないのは承知の上です。コーチング実践等、同内容での講義が多かったのは感じました。
- ケースメソッドの終わり方の意図がわかりませんでした。

（運営）

- 質問の時間がない場合の問い合わせ先。
- 数名の講師で資料配布がなかった場合の対応策。
- 課目においては資料の配布がなかった講義がありました。とても興味のあるものばかりだったので、今後NTCと調整し、レコーディングした内容を確認させていただきたい。
- NCAの受講が1年で修了せず、複数年度にわたった場合、受講料は毎年同額を支払わなければならないですか。
- 実際、今回は座学が多く様々なカリキュラムが変更されたとともに、オンラインとハイブリットという形式だったが、コストは例年と比べてどのような変化があったのか。

（特になし+α）

- 多くの講義がリモートでも不自由を感じることなく、受講することができました。
- 特にありません。様々な競技の先生方とお会いできてよかったです。
- 特になしです。コロナ禍でこのような講習が受けられて本当に良かったです。
- このコロナ禍での運営は本当に大変だったと思います。特にありません。
- 特になし、今回初の試みのハイブリット式でしたので。

（５）その他、所感

❖実施方法（オンライン）

- このご時世で、研修ができたのは奇跡…ではなく、スタッフ皆さんの準備、気遣い、配慮があったからだと思います。感謝しかありません。また今回のZoom研修が今後、新しい「カタチ」としてのモデルケースとなることを期待している。
- とても学びと気づきが生まれた自分の武器にしたい、スタンダードにしていきたい。プレゼンも最後は緊張せずにできた、自分の弱みや強みが認識できた。
- オンラインで受講させていただきました。このシステムがあり、3年目にしようやく授業コマ数が獲得できたと思います。オンラインのご準備は私の想像を超える難しさがあったと思

ます。本当に感謝しております。

- 今後、オンライン講習会などを視野に入れるなら、研修室の設備を新しくしたほうがいいかもしれません。
- アカデミーのハイブリッドは、先生自体も初めての方が多く、オンラインの生徒が蔑ろにされてしまう場面も多く感じた。しかし、運営側の努力や準備が現場では垣間見えて、本当に今年度こういったかたちで実施していただけて感謝しています。

❖ プログラム

(時期・期間)

- 8週間ほぼ連続で講義だと、現場で実践し、その振り返りをし、またアカデミーで学ぶということが難しいと感じた。8週のプログラムであれば、月に2週ずつを4ヶ月に渡り行うといったスパンであれば、学んだことをよりタイムリーに現場で実践し、またフィードバックして、講義でさらに学ぶことができるのではと思いました。
- 開催時期がシーズン開始と重なっていたため、全ての講義への参加が難しかったです。オリンピックの時期等の関係もあったとは承知の上ですが、やはり冬季競技の関係者にとってこの時期のみの開催は、競技との両立が難しいと感じました。興味のある講義に参加できないこともあったため、そこが残念でした。

(内容)

- 本当に現場に必要なことをもっと精査して、もっと横のつながりをとれる、ディスカッションの時間が必要だと思いました。困っている人、悩んでいる人が多くいるように思えました。休み時間や短時間の話し合いではなく、みんなでもっと深く話し合い、解決の糸口を見つけられるような場があればと…。
- 講義のコマ数を埋めるのに、座学で可能なもので補わなければならないためか、後半に連れてディスカッションが増えるなど、学びの低い講義も多かったように感じる。
ディスカッション、コーチング実践に関しては2回実施されたが、現場からオンラインになったことや初回よりさらに深い知識を持ったうえでのぞむというよりは、ただ課題の提示と実践のみで、2度目はどちらも質が低下したように感じた。
- インプットとアウトプットがバランス良くできて深い学びとなりました。
- カリキュラムの組み方が秀逸で、受講しながら、段階的に成長できていることを実感できた。この受講する講義の順番によって気づくこ

とやハッとすることが変わっていたと考えられる。本当に素晴らしいカリキュラムだったと感じる。

❖ 感想

- 様々な点で気を使っただきありがとうございました。
- 素晴らしい教育をありがとうございました。本当に良い学びが出来ました。
- コロナウイルス感染防止の観点から、様々なカリキュラムが実施できなかったと思いますが、不足感は全くなく、非常に充実した時間を過ごさせていただきました。スタッフの皆さんには本当に感謝いたします。ありがとうございました。
- たくさんの気付きや学びがありました。ありがとうございました！
- 開催していただけたことに心より感謝いたします。「飲みに行くな」と一言もおっしゃらなかったメッセージがとても頼もしかったです。ありがとうございました。
- このナショナルアカデミーでは、日頃、深く考えることがなかった、マネジメントや言語技術などを細かくかみ砕き、指導していただきました。指導者が、より充実した選手育成ができるカリキュラムが豊富だったので、今後の指導に活用していきます。
- 授業や同期の仲間からの学びは非常に多く、自分自身と向き合うことも出来た大変有意義な時間になりました。
- 今後も質を保ち、さらに上を目指したアカデミーになることを期待しております。
- コロナ禍において非常に工夫して開催頂いているのを感じました。私達13期生はこのオンラインとのハイブリッド開催の形での受講しかしていないので過去の受講と比べる必要はないと考えております。どの様な形の開催であれ、学びの機会と気づきを与えて頂いたことには違いありません。講義内容はコーチングの場において実践的かつ必要な物ばかりなのですが、コーチング論やマネジメント論で一流の現場で講師の方が人生をかけて全力で取り組む姿勢を非常に強く感じました。私は今期のメンバーで受講できたことに感謝しております。そして何より毎回楽しんで受講することができました。前原ディレクターには要所々々でお声掛け頂いて感謝しております。伊藤さん、スタッフの方々にも大変お世話になりました。改めて御礼申し上げます。
- 運営スタッフ、皆様ありがとうございました。
- 非常に楽しい2カ月間でした。大きな学びと仲間の間を提供くださったことに大変感謝しております。